



- ◎出身地：菊陽町(大堀木)
- ◎生年月日：昭和52年9月13日(現在35歳)
- ◎所属：中日ドラゴンズ(元中日選手会長・現日本プロ野球選手会副会長)
- ◎経歴：
 - 平成2年3年：菊陽中部小学校卒業
 - 平成5年3月：菊陽中学校卒業
 - 平成8年3月：熊本工業高校卒業(甲子園出場2回(94年春・95年春))
 - 平成8年：中日ドラゴンズ入団(ドラフト1位)現在プロ17年目
 - 平成16年：ゴールデングラブ賞受賞(初)
 - 以降平成21年まで連続受賞(6回)
 - 平成16年：ベストナイン受賞(初)
 - 以降平成18年まで連続受賞(3回)
 - 平成19年：盗塁王獲得
 - 平成19年：中日ドラゴンズ日本一
 - 平成20年：北京オリンピック出場
 - 現在もレギュラーとして活躍中
 - 通算1,656安打(2,000本安打まで344本)
- ◎中日ドラゴンズ成績(荒木選手レギュラー獲得後)
 - 平成13年…5位(星野仙一監督)
 - 平成14年…3位(山田久志監督)
 - 平成15年…2位(//)
 - 平成16年…1位(落合博満監督)
 - 平成17年…2位(//)
 - 平成18年…1位(//)
 - 平成19年…2位(//) ※日本シリーズ優勝
 - 平成20年…3位(//)
 - 平成21年…2位(//)
 - 平成22年…1位(//)
 - 平成23年…1位(//)
 - 平成24年…2位(高木守道監督)



中日ドラゴンズ・ 荒木雅博選手が 愛する菊陽町を 熱く語る

あら き まさひろ 中日ドラゴンズ 荒木 雅博さん

体連で優勝しました。3年生の頃はキャプテンを任ざられていて、3番打者でショートを守っていました。当時から野球は大好きでしたね。町長 熊本工業高校の野球部に入部してからはどんな生活をしていたのですか。荒木 自転車通っていました。朝は早いし夜は11時くらいに帰ってきてヘトヘトなんです。それが普通だと思っ

ない代わりに、ある程度「こなうなったらいいな」という意識を持ってやらなければならぬことをしっかりとやるタイプなんです。だから自分の少し上の目標を決める、その目標をクリアしたらまた次の目標を決めてクリアしていく。そうすると、後々になってどこまで来られたのか見えてくるようになるから、高すぎる目標を立てるよりも、目の前の目標を決めて一歩一歩進んでいこうというのが僕のモチベーションの保ち方です。町長 小さい目標の積み重ねが最終的にプロにつながったということですね。教育長 荒木選手はそうやって盗塁王など、いくつもタイトルをとってきたようですが、これまでに一番うれしかったタイトルは何ですか。荒木 ゴールデングラブ賞を連続でとったことがうれしかったですね。町長 今後「この賞を取りたい」と思っているものはありますか。荒木 首位打者か最多安打をとりたいですね。その目標をかなえるまでは、いつまでも野球を続けたいと思っています。

菊陽町出身で、現在、中日ドラゴンズで活躍中の荒木雅博選手。小中学生の野球大会ではボールを寄贈されたり、熊本に帰ってきたときには野球教室を開かれたりと、未来を担う菊陽町の子どものために尽力されています。今回は新春企画として、荒木選手に菊陽町に対する思いを聞きながら、菊陽町のまちづくりについて対談を行いました。



▲ゴールデングラブ賞のトロフィー

町長 今回はこの対談のためだけに名古屋から帰ってきていただいたそうで、ありがとうございます。荒木 いいえ。菊陽町には育ててもらった恩がありますから、いつでも呼んでください。――野球について

町長 子どもの頃から野球をしていたのですか。荒木 小学生の頃はソフトボールをしていました。子ども会のソフトボール大会に出て大堀木は優勝したこともあります。本格的な野球は中学校に入ってからですね。町長 ではその頃からプロを目指されていたと。荒木 中学校まではプロ野球選手になろうとは思っていませんでした。高校に入ってからでもそんなに。僕は自分がかのくらいのレベルにいるのか客観的に見えないとダメな性格なんです。でも当時は「あいつには負けない」という気持ちは持って練習をしていたと思います。町長 当時の菊陽中学校はチームとしても強かったですよね。荒木 強かったですね。1つ上の代と僕の代に菊池郡の中



議長 大塚 昇

町長 平成8年に「広報きくよう」で対談特集をしたときに「努力して有名になったら菊陽町で野球教室を開いて後輩たちを指導したいです」と語ってくれました。その言葉



教育長 赤峰 洋次

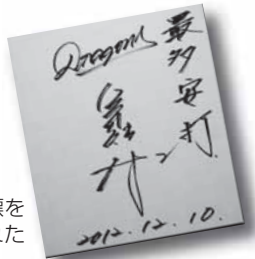
議長 定期的に帰ってきて子どもたちに講演をしたり野球教室を開いてもらったりしていますよね。荒木 なるべく子どもたちと触れ合える時間をつくるようにしています。

町長 荒木選手が2008年の北京オリンピックに出場したときには、菊陽の子どもたちも「さんふれあ」に集まって応援していました。子どもたちにも一言エールをお願いします。

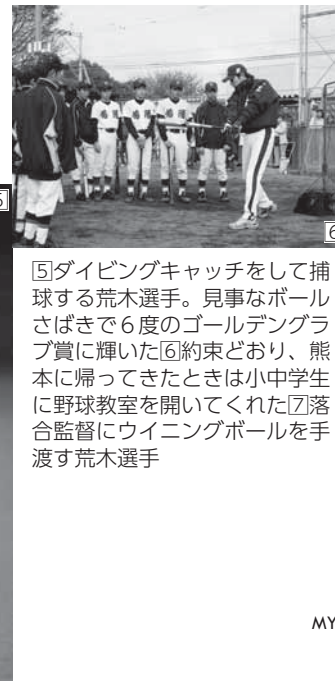
教育長 私も学生時代からスポーツを楽しんできました。将来の菊陽町を担う子どもたちに、学力はもちろんですが、スポーツに親しみ健康で明るく「生きる力」を持つ子どもに育ててほしいと思っています。荒木選手の活躍は子どもたちに元気を与えます。子どもたちも学校では学ぶことのできない何かを感じてくれていいはずです。これからも厳しいスポーツの世界での頑張りに期待したいと思います。



1 来季の目標を記してくれた



3 2012年の広島カープ戦でホームランを放つ荒木選手



5 6 7



Mr. ARAKI's History



菊陽町長 後藤 三雄

町長 ずっと野球をしていて、つらいことはありませんでしたか。荒木 つらいことの方が多いですね。良いこと2割、つらいことは8割くらいあります。でも2割の良いことをさらに体験できるように頑張っていないといけないんです。つらいことがあっても、これが今の自分の実力だと思つてやってみようかな。もし挫折して「もうダメだ」と思うんだつたら、そう考える前にまず一度ゼロに戻って一からやり直したら完璧にやり直せると思います。ゼロより下はありませんから。僕はそうやっていろんなことを乗り越えてきました。

―菊陽町の印象について

荒木 住んでいるときはこれが普通だと思つていましたが、外に出てみて本当に良い環境にいたんだなと思つきました。住んでいるときは気がまかせんでしたが、外に出て初めて分かりましたね。議長 どの辺りが良い環境だと感じたのですか。荒木 やっぱり田舎なところでしょうね。常にこっちに住みたいとは思いますが、食べ物も水もおいしいです。僕がいた頃より開けてきている場所も増えてきて少し寂しくも感じますが、白川沿いや自宅の近くは畑もいっぱいあってゆつくりできます。のんびりしたいと思つたときに帰ってくるので、菊陽町の田舎の風景は好きですね。教育長 菊陽町に生まれて良かったと思つたことはありますか。荒木 もちろん今でも思つています。人が良かったですからね。今になってそれに気がきます。いい人しかいなかったから、逆に社会に出てカルチャーショックを受けることもありました。そのぐらい周りの人にはすごく恵まれていましたね。菊陽町にはお世話になりましたから、何かとお返しをしていかないとと思つています。教育長 菊陽町はだんだん変



わつていっていますが、荒木選手から見ると「菊陽はこんな姿で残してほしい」や菊陽町に対する思いはありますか。荒木 できれば今のまま残してほしいのが本音です。開発も必要だと思いますが、人の温かさだけでも変わらないでほしいです。近所付き合いというのは都会になるほどなくなっていくし、これだけ人口が増えているなら、横と横の触れ合いはなかなか難しくなっていくていっているでしょう。できれば人のつながりはこれからも続いてほしいです。町長 菊陽町は都市計画で開発させる部分と調整していく